

176. 下水道と水産業

福島再生プロジェクト推進室長 藤本 裕之

下水道関係の英文雑誌を見ていると、「ウォーター・リソース・リカバリー・ファシリティ」という言葉を見かけるようになりました。水資源回収施設???何か特殊な施設なのかと思って読み進むと、下水処理場のことでした。最近では、下水から、再生水だけでなく、電力や熱などのエネルギーやリンなどの資源も回収できるようになって来ましたので、下水処理場は「水資源回収施設」の名にふさわしい施設になって来ました。日本でも、下水処理場のことを「水再生センター」とか「水循環センター」と呼ぶようになってきました。ウォーター・リクラメーション・ファシリティという表現も見かけますが、「リクラメーション」は「再生」ですので、こちらはまさに水再生センターの意味です。

以前は、下水処理場のことは、英語で「ウェイストウォーター・トリートメント・プラント」というのが一般的でした。その前は「スウェッジ・トリートメント・プラント」でした。下水のことを、「スウェッジ」では印象が悪い(らしい)ので「ウェイストウォーター」(廃水)に言い換えたのが、ついこの間かと思っていたのですが、今では下水処理場の名前から「下水」を外して「水」で表現しようとしているようです。英文雑誌の記事で、トルコの研究者が下水処理場について「ウォーター・リソース・リカバリー・ファシリティ」の表現を使っていたので、英語の世界では既に一般用語になった感があります。(私個人は、日本語では「下水処理場」、英語では「ウェイストウォーター・トリートメント・プラント」を使用していますので、世間からは遅れているのかも知れません。)

下水を「水」(の一部)として理解しよう、表現しよう、というのがトレンドのようですが、「下水道界」に住む「下水道人」であることを誇りにしている私としては、釈然としなないものがあります。さらに、英語の世界では、上下水道界を表す表現として「ウォーター・セクター」と言う表現を使っています。そのまま日本語にすると「水分野」、少し日本語らしくすると「水産業界」になります。窒素・リンを豊富に含む下水処理水の海苔養殖業での利用などもありますから、「すいさんぎょう」と読んでも良いかも知れませんが、「みずさんぎょう」です。「ウォーター・インダストリー」という言葉も見かけますが、こちらは「水産業」そのものです。下水道は、いずれ水産業という分類になるかも知れませんが、その時には、下水道人は「水商売(ウォーター・ビジネス)」の人ということになるのでしょうか。

おまけ1: 総務省の日本標準産業分類によると、「下水道業」は、「電気・ガス・熱供給・水道業」に分類されており、この中の「水道業」に含まれています。

おまけ2: 「国際水ビジネス(こくさいみずびじねす)」と早口で5回続けて言って見ましょう。舌をかまわずに言えたら、あなたも国際水ビジネスパーソンです。